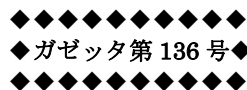


# メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(28)

第 136 号～第 140 号 (2016 年 5 月 25 日～7 月 5 日配信)

配信した「ガゼッタ」No.136-140 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。



ガゼッタ第 136 号をお届けします。

本号は、「ロッシェニ新譜の中休みと直近のリリース予定」、「WOWOW で初放送された MET 《セビーリャの理髪師》」、「ROF 会期中に現地のイサツアーが二つのツアーを企画」をお届けします。

なお、ロッシェニ図像学の頁に「ペーザロ・ロッシェニ協会の記念リトグラフ (1864 年)」、「1865 年のロッシェニの肖像 (リトグラフ)」、「バシーの別荘 (プロヴォのデッサン。『新画報』1866 年 6 月 13 日付)」の PDF を新規掲載しました (5 月 23 日アップ)。

ロッシェニ図像学の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/portrait.html>

次回例会 (6 月 26 日「2016 年 ROF 予習会」) のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

例会後の懇親会への出欠をお尋ねする往復はがきは、今月中に会員の皆さまに発送いたします。

## ▼ロッシェニ新譜の中休みと直近のリリース予定▼

当メルマガにロッシェニの新譜を紹介したのは 3 月 25 日配信の第 130 号〈ロッシェニ風のスペイン〉が最後。まる 2 カ月間、新たなリリースがありません。これはネット動画の普及によりクラシックの CD や映像ソフトの市場が縮小した結果で、物＝商品としての CD、DVD、BD が買われなくなったのです。タダもしくは格安で大量の音源や動画がネット配信される流れは止めようがなく、若者にとっては遠からず CD や DVD が LP レコード同様「使ったことの無い過去の遺物」になるかもしれません。

筆者は毎月新譜を買いますが、魅力的な録音が減って購入点数も減る一方です。注文した後にネットで聴けることが判り、品物が届く前に聴いちゃうこともしばしば…「なんのために買うのか」と思わぬでもありませんが、仕事も兼ねているので買わないわけにもいきません…

ところで、ロッシェニのディスクは年間通して発売されるのではなく、集中する時期があります。ヴィルトパートのロッシェニ音楽祭や ROF に先立つ 5 月末からが「旬」の始まりで、今年は次の 3 点はその皮切りです。

- ・メヅソプラノ、カリーヌ・デエによるロッシェニ・アルバム (2015 年 5 月録音) Aparte (CD)
- ・《新聞》2014 年 6 月ワロン王立歌劇場上演ライブ Dynamic (DVD と BD。日本語字幕付き)
- ・《ランスへの旅》2014 年 7 月ヴィルトパートのロッシェニ音楽祭上演ライブ Naxos (CD3 枚組)

詳細は、後日メルマガで順次紹介します。

## ▼WOWOW で初放送された MET 《セビーリャの理髪師》▼

事前にお知らせできませんでしたが、5 月 14 日 WOWOW にて MET ライブビューイングの《セビーリャの理髪師》が初放送されました。収録日は 2014 年 11 月 22 日。

演出：パートレット・シャー、ミケーレ・マリオッティ指揮メトロポリタン歌劇場管弦楽団&同合唱団。配役は、アルマヴィーヴァ伯爵：ローレンス・ブラウンリー、ロジーナ：イザベル・レナード、フィガロ：クリストファー・モルトマン、バルトロ：マウリツィオ・ムラーロ、バジリーオ：パータ・ブルチュラーゼほか

昨年 1 月、映画館の MET ライブビューイングでご覧になった方も多いと思いますが、見逃した筆者は今回の WOWOW 放送が初見です。

パートレット・シャーの演出は 2006 年の制作で、フローレス&ディドナートの 2007 年 MET と同じで新味はありませんが、オケピットを囲んで歩く空間を配し、大きな荷車に乗ったフィガロの登場や、可動式のたくさんの扉の使用などの視覚的変化で楽しませ、酔っぱらいの兵士に扮した伯爵の演技も笑えます。

ブラウンリーの伯爵はフローレスに及ばぬものの、演技が達者で終盤のアリアも立派に歌っています。イザベル・レナードは、2011 年から今年 1 月までの MET 上演でロジーナを務めたチャーミングなアメリカ女性。場数を踏んで成長しました。イケメンのモルトマンによる澁刺としたフィガロも魅力的。

マリオッティは ROF 仕込みのはずなのに、テンポも解釈は旧弊で不満あり (今の歌声) が一例。レチタティーヴォ・セッコの伴奏にチェンバロを使うのも MET の慣習で、新たなアプローチを期待した筆者はやや肩透かしの印象です。再放送は期日未定ですが、関心のある方は WOWOW 加入の友人に録画してもらってください。

ちなみに MET では、来年（2017年）1～2月に10回の上演を予定しています。ロジーナは近年人気うなぎ上りの南アフリカ生まれのソプラノ、プリティ・イェンデ。今年の ROF 《バビロニアのチーロ》でアミーナを歌います。伯爵はカマレナとコルチャックのダブル、フィガロはスウェーデン人ペーター [ペーテル]・マッテイと、キャストが一新されます。演出が相変わらずシャーなのは、しゃーない、ですね…（いちおうダジャレです）。

### ▼ROF 会期中に現地のイサツアーが二つのツアーを企画▼

ROF 友の会の会員には、ROF 会期中の 8 月にイサツアー (Esatour) が行う二つのツアー企画がメールで届いていることと思います。

#### ◎ペーザロのバロック音楽と美術 (8月11日17日)

これは徒歩によるペーザロ観光で、11時に集合場所を出発し、反宗教改革時代の16世紀末に造られた「神の名教会 (Chiesa del Nome di Dio)」を訪れ、11時45分からバロック音楽のプライベート・コンサートを鑑賞します (編成は、歌手、ヴァイオリン、チェロとテオルゴ。音楽はモンテヴェルディ、フレスコバルディほかの作品)。12時45分にワイナリーに行き、13時15分からビュッフェ・ランチ、14時30分から再度演奏を聴いて15時30分解散とのこと。価格：70ユーロ

#### ◎サッソコルヴァーノの城塞と劇場 (8月13日と19日)

これは9時にホテル街を出発し、ペーザロから1時間弱に位置する人口・約3450人のサッソコルヴァーノ (Sassocorvano) を訪問するバスツアーです。山の上のパノラマを楽しみ、ロッカ (城塞) と村の教会を訪れ、小さな私的劇場で弦楽四重奏の演奏を鑑賞し、ビュッフェ・ランチで地方の伝統料理とワインをいただきます。ペーザロ戻りは16時ころ。価格：120ユーロ

イサツアーが昨年初めて実施したツアーは最後の偉大なカストラート、クレシェンティーニの故郷ウルバニア訪問とあって皆さまにお薦めし、筆者も参加しました。でも今回は魅力が乏しいような…

ちなみに昨年は3回実施予定で成立したのは1回だけ。それも日本ロッシーニ協会の会員と郵船ツアーのお客さまのおかげで、イサツアーのディレクターから「日本人のおかげで実施できた」と感謝されました。その点でも今回はやや不安。筆者も決めかねています (サッソコルヴァーノはパスしますが…)

イサツアーのサイトでのご案内はこちら ↓

<http://www.esatour.it/en/component/zoo/advanced-search/3976?Itemid=320>

それぞれのツアー・パンフレット英語版はこちら ↓




### BAROQUE MUSIC&ART in PESARO - August 11, 17 2016

The tour wants to discover one of the hidden corners of baroque testimonies in Pesaro: the "Chiesa del Nome di Dio" (Church of the Name of God). It is a beautiful church rich of art from that period, remained unchanged until today. A private concert dedicated to baroque music will enchant everyone, after a visit of the church cared by an expert guide. A buffet lunch will follow, in a local traditional winery based on traditional local food and one of Gioachino Rossini's favourite recipes, introduced by an expert chef. The tour will be completed by an artistic final surprise.



**Programme for each tour (11th and 17th of August 2016)**

- ✓ 11:00 AM: Meeting in Pesaro city center, and
- ✓ Guided visit of "Chiesa del Nome di Dio", ridge pearl of 1600 in Pesaro
- ✓ 11:45 AM: Introduction to
- ✓ Private concert "Se l'Aura spira" performed by a Quartet of professional artists (singer, violin, cello and Theorbo) based on Italian XVIIIth century music. Preliminary programme:
  - o Biagio Marini (1594-1663) - Violin - Sonata in G minor
  - o Giovanni Stefano (1619-1696) - Amante felice: Scherzo d'amanti
  - o Claudio Monteverdi (1567-1643) - Si dolce è il tormento
  - o Girolamo Frescobaldi (1583-1643) - Conzon Quinta 6 2; Se l'Aura spira
  - o Giovanni Battista Vitali (1632-1692) - Partita sopra diverse Sonate per cello solo
  - o Carlo Milanesi (ca.1594 - ca.1647) Brta: memento Soneto; Amor cantante ossia Si dolce tormento; Ochi sereni; Partenza dura
  - o Donio Castello (ca.1590 - ca.1658) - Sonata for violin and bass
- ✓ 12:45 PM: Walk through Pesaro city center headed to a local winery for lunch, discovering old pearls on the way...
- ✓ 1:15 PM: Buffet lunch in a typical winery, based on traditional local dishes and one of Gioachino Rossini's favourite recipes, introduced by an expert chef.
- ✓ 2:30 PM: Final artistic surprise
- ✓ 3:30 PM: End of the tour

**The proposal includes:**

- ✓ English speaking tour guide
- ✓ Private guided visit of the "Chiesa del Nome di Dio"
- ✓ Private concert in the church "Se l'Aura spira" held by a Quartet of professional artists.
- ✓ Walking in the city center
- ✓ Buffet lunch in a typical winery
- ✓ Final artistic surprise
- ✓ Phone assistance

**PRICE: € 70,00/person**

Each daily Tour will operate with a minimum of 25 and maximum 50 participants. In case the minimum will not be reached on a specific tour, Esatour will be free to cancel the tour within 30 days before departure.



info & booking:

ESATOUR Opera & Music Travels  
 via XI Febbraio 42 61121 Pesaro (PU) ITALY ph. +39 0721 387289 fax +39 0721 387288  
 P.I. 02037749413 opera@esatour.it www.esatour.it www.esatour.com




### SASSOCORVARO FORTRESS & THEATER - August 13th, 19th 2016

In Sassocorvano there is a stronghold ("Rocca") of the XVIIth century with a typical "Turtle like" shape, and a small and precious theater inside. We will experience ancient atmospheres with a tour of the "Rocca" accompanied by the Director, and a concert in the "Teatro della Rocca" held by a quartet of professional musicians with a repertoire of music from the XVIIIth to the XXth century. A buffet lunch in a typical local winery with traditional local food and a visit to a renowned producer of food excellences will complete ... the taste of the tour!



**Programme for each tour (13th and 19th of August 2016)**

- ✓ 9:00 AM: Bus transfer from city center and seaside Hotels pickup points.
- ✓ English speaking tour guide.
- ✓ 10:00 AM: arrival in Sassocorvano. Short stop for a welcome coffee break in a panoramic point.
- ✓ 10:30 AM: Stronghold of Sassocorvaro.
  - ✓ Introduction and visit of the "Rocca" cared by the best guide: the Director of the Museum inside the Stronghold
  - ✓ Arrival at the theater, history and stories about the theater; introduction to the concert, on the theme of XVIIIth century compositions.
  - ✓ Private concert by a String Quartet. Preliminary programme:
    - o Grands Quatuors Concertants - Gioachino Rossini (1792 - 1868)
    - o Quartet in G min. op. 27 n.2 - Luigi Boccherini (1743 - 1805)
    - o Wolfgang Amadeus Mozart (1756 - 1791)
- ✓ 12:30 PM: walking through the alleys of the village, to reach the Church of Holy Trinity first, to see St. Valentine's remains, and then a local traditional winery for lunch.
- ✓ 1:00 PM: Buffet Lunch in a typical winery in the village, with Montefeltro traditional food and wines served.
- ✓ 2:00 PM: visit to a local producer of typical food excellences near Sassocorvaro
- ✓ 3:00 PM: Departure from Sassocorvaro
- ✓ 4:00 PM: Arrival in Pesaro - end of the tour.

**The proposal includes:**

- ✓ Transfer by Touristic Bus Pesaro-Sassocorvaro and return
- ✓ English speaking tour guide
- ✓ Guided tour of the Stronghold of Sassocorvaro and the theater by english speaking expert guide
- ✓ Private use of the theater "Teatro della Rocca" with presentation of the concert.
- ✓ Private concert "Grands Quatuors Concertants" in the theater held by a string quartet.
- ✓ Walking in the village with the visit of the Church of the Holy Trinity
- ✓ Buffet lunch in a typical winery
- ✓ Visit to a renowned local food excellences producer
- ✓ Phone assistance

**PRICE: € 120,00/person**

Each daily Tour will operate with a minimum of 25 and maximum 50 participants. In case the minimum will not be reached on a specific tour, Esatour will be free to cancel the tour within 30 days before departure.



Per informazioni:

ESATOUR Opera & Music Travels  
 via XI Febbraio 42 61121 Pesaro (PU) ITALY ph. +39 0721 387289 fax +39 0721 387288  
 P.I. 02037749413 opera@esatour.it www.esatour.it www.esatour.com

本日はこれにて失礼いたします。

次号から、毎回 1200 字目安で最新研究に基づく詳細かつ正確なロッシーニ伝を連載したいと思います…月 3 回、2018 年 1 月に全 60 回で完結予定です。通常のメルマガに収めるか、別途メルマガと同時配信するか、これから管理人さんと相談しますが、切りよく 6 月 5 日に第 1 回を載せますのでよろしくお付き合いください。

(2016 年 5 月 25 日 水谷彰良)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
◆ガゼッタ第 137 号◆  
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ガゼッタ第 137 号をお届けします。  
本号は、「没後 150 周年に向けて「150 ROSSINI」始動!」、「ロッシーニ新譜：《新聞》DVD 発売!」、「『ロッシーニの生涯と作品』の連載について」をお届けします。

次回例会（6 月 26 日「2016 年 ROF 予習会」）のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>  
なお、例会後の懇親会への出欠をお尋ねする往復はがきを会員の皆さまに発送済みです。返信はがきは 6 月 10 日までに投函してください。

### ▼没後 150 周年に向けて「150 ROSSINI」始動! ▼

ROF のサイトに載っていないので気づくのが遅れましたが、今年 3 月 1 日ローマのイタリア上院宮殿にて、「ロッシーニ没後 150 年記念」のための国立委員会設置と特別法案提出の記者会見が行われました。委員会はイタリア前大統領ジョルジョ・ナポリターノ、RAI（イタリア放送協会）会長らをメンバーに立ち上げられ、23 人の代議員が署名したロッシーニ記念イベントに 650 万ユーロ（8 億円弱）を拠出する特別法案が提出されました。

これに関する RAI News24 の放送動画はこちら↓  
<http://www.rainews.it/dl/rainews/media/celebrazioni-Rossini-a-150-anni-dalla-morte-5e22eb6d-7ce5-4ae0-b4cc-e4a1ae207ff8.html>  
複数の動画付きの詳しいサイトはこちら↓  
<http://www.dire.it/01-03-2016/40692-150esimo-di-rossini-un-ddl-per-celebrare-il-patrimonio-della-cultura-italiana/>

メインの記念年は 2017~18 の 2 年間ですが、「150 ROSSINI」と題された包括的催しはその前後を含む 2016~19 年の 4 年間が対象です。つまり《セビーリヤの理髪師》初演 200 周年の今年を皮切りに、イタリア全土で関連イベントが催されるわけです。

ちなみに、ペーザロでは今年 2 月 20 日から 29 日までの 10 日間、「Figaro qua, Figaro la」と題して初演 200 周年を祝う催しが系統的に開催されました。



「150 ROSSINI」ロゴマーク



「150 ROSSINI」ポスターデザイン(左)  
「Figaro qua, Figaro la」のポスター(右)



「Figaro qua, Figaro la」の詳細プログラムはこちら↓  
<http://teatridipesaro.it/notizia/150-rossini-figaro-qua-figaro-la>

筆者が数年前から折にふれ力説してきた「2018 年」がついに顕在化しました（笑）。その意味でも、今年の ROF（ロッシーニ・オペラ・フェスティバル）が楽しみですね。

### ▼ロッシーニ新譜：《新聞》DVD 発売! ▼

前号で予告したロッシーニ《新聞》の上演映像が発売されました。

◎ロッシーニ：歌劇《新聞》

ステファノ・マツォーニス・ディ・ブララフェーラ演出、ヤン・シュルツ指揮ワロン王立歌劇場管弦楽団、同合唱団 チンツィア・フォルテ (S/リゼッタ)、エドガルド・ロチャ (T/アルベルト)、ジュリー・ベイリー (Ms/ドラリーチェ)、モニカ・ミナレリ (Ms/ラ・ローゼ夫人)、エンリーコ・マラベリ (B/ドン・ボンボニオ)、ローラン・クブラ (Br/フィリッポ)、ジャック・カラタユ (Br/アンセルモ)、ロジャー・ヨアキム (B/トラヴェルセン) 他

収録：2014年6月リエージュ Dynamic 37742 (DVD。日本語字幕付き)



これは一昨年ベルギーのワロン王立劇場における上演映像です。その一部は昨年2月11日に筆者が行った例会講演「ロッシーニ研究の最前線」でも紹介しましたが、全幕はこのDVDが初出となります。

演出家マツォーニスは舞台を現代の三つ星ホテル「鷲」に置き換え、新聞の代わりにノートパソコンでネット広告を読むという趣向。登場人物の衣装がカラフルで、ホテルの外観と内部も写実的なのですが、見ていて「野暮ったいな」と思わぬでもありません……一言で言えば、洗練されていない演出なのです。

歌手も同様で、リゼッタ役のチンツィア・フォルテは元々発声に難がありましたが、さらに下降線を辿っています。脇役も一流とは言え難く、五重唱のアンサンブルの乱れに稽古不足が透けて見えます。テノールのロチャも、なぜか精彩を欠きます。2月末にNHK-BSで放映された昨年ROF上演を知る人にはお薦めできませんが、せつかく日本語字幕付きで発売されたのですから、皆さん見てあげてください……変な言い方でゴメンナサイ。

▼『ロッシーニの生涯と作品』の連載について▼

メルマガの前号に、2018年完結予定のロッシーニ伝を連載します、と予告しました。さっそく第1回原稿を作成しましたが、メルマガの文字制限、注釈、図版、表組を表示できないなどの問題に頭を悩ませ、HP管理人さんに相談した結果、「メルマガには不向き」との結論に達しました。

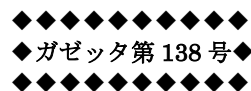
そこで協会HPに新たにロッシーニ伝を掲載する頁を設け、月3回のメルマガ配信に先立ち1回3頁目安のPDFを完全版として掲載することにしました。

最新研究に基づく詳細なロッシーニ伝として、お読みいただければ幸いです。

水谷彰良『ロッシーニの生涯と作品』連載第1回はこちら→ <http://societarossiniana.jp/rensai-1.pdf>

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年6月5日 水谷彰良)



ガゼッタ第138号をお届けします。

本号は、前号に記した没後150周年に向けた新たなロッシーニ・ルネサンスと関連し、秋・冬の重要公演から「10月、ついにMETが《ギョーム・テル》を初上演!」、「11~12月、サン・カルロ劇場で《オテッロ》200周年記念上演!」、「10月30日：藤沢市民オペラ《セミラーミデ》チケット発売開始!」をお届けします。

なお、協会ホームページの「ロッシーニとその時代」の「日本における受容と上演記録」の項目に、会員の柳川文雄さん編纂による「2014年(平成26年)日本におけるロッシーニ作品の主な上演記録」のPDF、ロッシーニについての頁の「ロッシーニ伝」の項目に連載「ロッシーニの生涯と作品」第2回のPDFを新規掲載しました(6月7日と13日アップ)。

「ロッシーニとその時代」の項目はこちら→ <http://societarossiniana.jp/others.html>

「ロッシーニ伝」の項目はこちら→ <http://societarossiniana.jp/rensai.html>

次回例会(6月26日「2016年ROF予習会」)のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>  
例会後の懇親会には、32名の出席のお返事をいただいております。横浜中華街での大宴会、お楽しみに!

▼10月、ついにMETが《ギョーム・テル》を初上演!▼

メトロポリタン歌劇場(以下、METと略記)、2016-17年のシーズン演目とキャストが正式発表されたのは今年2月。サプライズは、10月の《ギョーム・テル》です。

◎《ギョーム・テル》フランス語オリジナル・ヴァージョン

2016年10月18, 21, 25, 29日、11月2, 5, 9, 12日

演出：ピエール・オーディ(Pierre Audi)、指揮：ファビオ・ルイージ(Fabio Luisi)

ギョーム・テル：ジェラルド・フィンリー (Gerald Finley)、アルノルト：ブライアン・イメル (Bryan Hymel)、マティルデ：マリナ・レベカ (Marina Rebeka)、エドヴィージュ：マリアンナ・ピッツォラト (Marianna Pizzolato)、ヴァルテル・フルスト：マルコ・スポッティ (Marco Spotti) ほか

MET 初上演は開場翌年の 1884 年 11 月 28 日、レオポルト・ダムロッシュ指揮によるドイツ語版でした (タイトルは英語表記で《ウィリアム・テル》)。MET 最後の上演は 1931 年 12 月 5 日、トゥッリオ・セラフィン指揮のイタリア語版です (タイトルは同前。MET における 31 回目の上演)。

今回は約 84 年ぶり、しかもフランス語版《ギョーム・テル》の MET 初上演です。残念なのは、この《ギョーム・テル》が同シーズン MET ライヴ・ビューイングのラインナップに入っていないこと。演奏時間が長すぎるから?…ともあれ、観たいならニューヨークに行くしかありませんね。

MET 《ギョーム・テル》の詳細はこちら ↓

<http://www.metopera.org/Season/2016-17-Season/guillaume-tell-rossini-tickets/>

では、記念年の 2018 年に MET は何を上演するのでしょうか?…発表はずっと先ですが、次の二つは主役歌手も含めて本決まりのようです。

◎2017-18 年シーズン：《セミラーミデ》セミラーミデ：アンジェラ・ミード/イドレーノ：ハビエル・カマレナ

◎2018-19 年シーズン：《ラ・チェネレントラ》アンジェリーナ：タラ・エロート/ラミーロ：フアン・ディエゴ・フローレス

この二つは新制作ではないので記念年には別途、あっと驚く公演や記念イベントが行われるでしょう。

### ▼11～12月、サン・カルロ劇場で《オテッロ》200周年記念上演!▼

今年は《セビーリヤの理髪師》《新聞》《オテッロ》の初演 200 周年。《セビーリヤの理髪師》のローマの 200 周年公演は 2 月に行われましたが、「ローマのロッシェニ 200 年 (Rossini a Roma 200 anni)」の一環で 7～8 月にもカラカラ浴場で上演されます (7 月 18, 28 日、8 月 1, 4, 10 日の 5 回)。これは大ブーイングのリヴェルモレ演出ではなく、2014 年カラカラ浴場ロレンツォ・マリアーニ演出の再上演です。指揮：イヴ・アベル、アルマヴィーヴァ伯爵：ジョルジョ・ミッセリ、フィガロ：マリオ・カッシ、ロジーナ：テレザ・イエルヴォリーノ。

詳細はこちらをご覧ください → <http://www.operaroma.it/spettacoli/il-barbiere-di-siviglia/>

のっけから話が逸れましたが、本題はもう一つの初演 200 周年《オテッロ》です。《オテッロ》は昨年スカラ座が上演し、コケた経緯がありますが、今年は 2 月バルセロナのリセウ劇場が演奏会形式で 2 回 (オテッロ：グレゴリー・クンデ、デズデーモナ：ジェシカ・ブラット)、2～3 月にアンデア・ヴィーン劇場がミキエレット演出で 6 回上演しています (オテッロ：ジョン・オズボーン、デズデーモナ：ニーノ・マチャイゼ)。

でも本命は、今年 11～12 月ナポリのサン・カルロ劇場における 200 周年記念公演です。初演は 1816 年 12 月 4 日、サン・カルロ劇場が焼失して再建中のためフォンド劇場で行われましたが、サン・カルロ劇場のために作曲され、同劇場のメンバーによって初演されたので、今回のそれは由緒正しい記念公演と言えます。

◎《オテッロ》ナポリ、サン・カルロ劇場

2016 年 11 月 30 日、12 月 1, 2, 3, 4, 6 日 (6 回公演)

演出：アモス・ギタイ (Amos Gitai)、指揮：ガブリエレ・フェッロ (Gabriele Ferro)

オテッロ：ジョン・オズボーン (John Osborn) /セルゲイ・ロマノフスキ (Sergey Romanovsky)

デズデーモナ：ニーノ・マチャイゼ (Nino Machaidze) /カルメン・ロメウ (Carmen Romeu)

ロドリーゴ：ディミトリー・コルチャック (Dmitry Korchak) /ジョルジョ・ミッセリ (Giorgio Misseri)

イアーゴ：フランシスコ・ガテル (Francisco Gatell)

ネットを見ても、「初演 200 周年記念」を大々的にうたっていないのが気になります。ちなみに演出するアモス・ギタイはイスラエル人の著名な映画監督ですが、オペラ演出の経験は無きに等しく、こちらやや心配……

サン・カルロ劇場《オテッロ》はこちら → <http://www.teatrosancarlo.it/it/spettacoli/otello-rossini.html>

### ▼10月30日：藤沢市民オペラ《セミラーミデ》チケット発売開始!▼

藤沢市民オペラの園田隆一郎芸術監督シーズン第 2 弾、ロッシェニ《セミラーミデ》演奏会形式のチケットが、6 月 12 日に発売開始となりました。

◎藤沢市民オペラ《セミラーミデ》(演奏会形式)

期日 2016 年 10 月 30 日 (日) 開演 14:00 (開場：13:30)

会場 藤沢市民会館大ホール (藤沢市鶴沼東 8-1)

料金 全席指定 (税込) S 席 5,000 円、A 席 4,000 円、B 席 3,000 円

指揮：園田隆一郎、ナビゲーター：朝岡聡

安藤赴美子 (セミラーミデ)、妻屋秀和 (アッスール)、中島郁子 (アルサーチェ)、

山本康寛 (イドレーノ)、伊藤貴之 (オーロエ)、伊藤晴 (アゼーマ)、岡坂弘毅 (ミトラ)



ーネ)、デニス・ヴィシュニャ (ニーノ王の亡霊)  
管弦楽：藤沢市民交響楽団、合唱：藤沢市合唱連盟

チケット申し込みは、藤沢市民会館：0466-23-2415 (受付時間 9:00-17:00)、湘南台文化センター：0466-45-1550 (受付時間 9:00-17:00)、チケットぴあ：0570-02-9999 まで。

朝岡聡さんのナビゲーター付きで午後 5 時終演予定なら全曲ではなく、ある程度のカットは仕方ありませんね。  
藤沢市民オペラ《セミラーミデ》の詳細はこちら→ <http://f-mirai.jp/archives/32031>

### 追記：郵船トラベルの「ロッシェニ音楽祭&ヴェローナ音楽祭ツアー」に残席あり！

個人的な話で恐縮ですが、「郵船トラベルのロッシェニ音楽祭&ヴェローナ音楽祭ツアー9日間/10日間」に残席が出ました。今年の ROF は新芸術監督お披露目の特別なフェスティバルとなりますので、お見逃しなく！  
今月中にお申込みいただければ、ご参加いただけます (8月10日出発。9日間コースと10日間コースあり)。

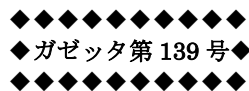
詳細とお申し込みはこちら (パンフレットもご覧いただけます) ↓

[http://www.ytk.co.jp/music/kaigai\\_opera\\_classic/tour/schedule/4093](http://www.ytk.co.jp/music/kaigai_opera_classic/tour/schedule/4093) (9日間コース)

[http://www.ytk.co.jp/music/kaigai\\_opera\\_classic/tour/schedule/4095](http://www.ytk.co.jp/music/kaigai_opera_classic/tour/schedule/4095) (10日間コース)

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年6月15日 水谷彰良)



ガゼッタ第 139 号をお届けします。

本号は、「この人は誰？…MET《アルジェのイタリア女》のイザベッラ」、「ロッシェニ新譜：2014 年ヴィルトバートのロッシェニ音楽祭《ランスへの旅》発売！」、「3月8日 G.ロッシェニ交響楽団の演奏会〈はなみー日本のための一輪のミモザ〉について」をお届けします。

なお、協会ホームページのロッシェニについての頁の「ロッシェニ伝」の項目に連載「ロッシェニの生涯と作品」第 3 回の PDF を掲載しました (6月24日アップ)。

「ロッシェニ伝」の項目はこちら→ <http://societarossiniana.jp/ren sai.html>

次回例会 (6月26日「2016年 ROF 予習会」) のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

例会後の中華街懇親会も、お楽しみに！

### ▼この人は誰？…MET《アルジェのイタリア女》のイザベッラ▼

前号に取り上げた、今年 10 月メトロポリタン歌劇場 (以下、MET と略記) のサプライズ《ギョーム・テル》と関連して気になるのが、同じ 10 月に MET が上演する《アルジェのイタリア女》です。

#### ◎《アルジェのイタリア女》

2016年10月4, 7, 12, 15, 20, 22, 26, 29日

演出：ジャン=ピエール・ボネル/舞台監督：グリシャ・アサガロフ、指揮：ジェームズ・レヴァイン

イザベッラ：Elizabeth DeShong、リンドーロ：ルネ・バルバラ、タッデーオ：ニコラ・アライモ、

ムスタファ：イルダル・アブドラザコフ

キャストでロッシェニ・ファンに馴染みのないのが、ヒロインのイザベッラを歌うエリザベス・デション (Elizabeth DeShong) ではないでしょうか。「この人、誰？」と思って調べると、MET の《真夏の夜の夢》やサンフランシスコ・オペラ《ルクレツィア・ボルジア》に出ていてすでに知っていましたが、ロッシェニ歌手としての認識ゼロでした。

アメリカ人の新進気鋭のメゾソプラノ、デションは《蝶々夫人》スズキで活躍しており、ロッシェニ歌手として国際的注目を浴びたのは 2012 年グライントーン音楽祭《チェネレントラ》タイトルロールが最初ようです (2014 年ウィーン国立歌劇場にもチェネレントラで出演)。今年は 3 月ボルドー歌劇場の《セミラーミデ》演奏会形式でアルサーチェ、4-5 月トロントの《マオメット 2 世》カルボを経ての MET イザベッラですから、ここへきてロッシェニ路線に本気で舵を切ったようです…来年はまだスズキをロイヤル・オペラとミュンヘン州立歌劇場で歌いますが…。まだ聴いていないので評価を保留しますが、続々と新たなロッシェニ歌手が現れるのは現代ならではでしょう…若きメゾソプラノの熾烈な競争に要注目！

エリザベス・デションのサイトはこちら→ <http://www.elizabethdeshong.com/>

なお、MET 《アルジェのイタリア女》の最終日 10 月 29 日が《ギョーム・テル》3 日目と重なっているので調べたら、正午から《ギョーム・テル》、午後 8 時から《アルジェのイタリア女》でした。MET は午後《トリスタンとイゾルデ》、夜に《ドン・ジョヴァンニ》の日もあるので問題ないですね。

### ▼ロッシェーニ新譜：2014年ヴィルトバートのロッシェーニ音楽祭《ランスへの旅》発売！▼

2014年7月ヴィルトバートのロッシェーニ音楽祭《ランスへの旅》ライブ盤が発売されました。

#### ◎ロッシェーニ《ランスへの旅》 2014年7月ヴィルトバートのロッシェーニ音楽祭

アントーニオ・フォリアーニ指揮ヴィルトゥオージ・ブルネンシス、ボズナン・カメラータ・バッハ合唱団 ラウラ・ジョルダーノ (S/コリンナ), マリアンナ・ピッツォラート (Ms/メリベア侯爵夫人), ソフィア・ムCHEDRISHVILI (S/フォルヴィル伯爵夫人), アレッサンドラ・マリアネッリ (S/コルテゼ夫人), ボグダン・ミハイ (T/騎士ベルフィオーレ), マキシム・ミロノフ (T/リーベンスコフ伯爵), ミルコ・パラッツィ (B/シドニー卿), ブルーノ・デ・シモーネ (B/ドン・プロフォンド), ブルーノ・プラティコ (B/トロンボノク男爵) ほか

録音：2014年7月バート・ヴィルトバート NAXOS 8.660382-84 (CD3枚組)



「全曲初録音」とうたっているのは、1984年の蘇演で効果を高めるために施されたカットや付加を再検討し、レチタティーヴォや通例カットされる反復部のカットをしりぞけ原則ノーカットで通したためです。こうしたノーカット演奏は、近年ヴィルトバートのロッシェーニ音楽祭の特色でもあります。毎年の出演で完全にロッシェーニに習熟したフォリアーニ指揮のヴィルトゥオージ・ブルネンシスとボズナン・カメラータ・バッハ合唱団が充実の演奏を繰り広げ、フォルテピアノ(ミケーレ・デリア)も闊達な伴奏で、合奏付きレチタティーヴォにも関与しています。

主役歌手の大半はロッシェーニ・ファンにお馴染みでも、フォルヴィル伯爵夫人のソフィア・ムCHEDRISHVILI (Sofia Mchedlishvili) だけは初耳のはず。トビリシ生まれの新人で、同地の音楽院を経てスカラ座の研修所で学び、デビューを2012年11月イェージのペルゴレージ劇場《ランメルモールのルチア》タイトルロールで飾ったばかり。翌13年にバーリのペトルツェリ劇場にジルダ、パヴィアで《タンクレーディ》のアメナイーデを歌い、続いてこの《ランスへの旅》への抜擢とあれば折り紙付きです。その声は夜の女王のタイプで、新人らしさはありませんが、他のメンバーに比して遜色ないテクニックで出色。コリンナを歌うラウラ・ジョルダーノが高音でやや叫びがちなのが残念です。

CD3枚組で約157分。アップロード指揮の蘇演がCD2枚で約136分ですから20分も長尺です！ ちなみにフィナーレの即興歌はアップロード盤の6分14秒に対し、10分50秒！ どこがどう違うかは、聴いてのお楽しみ！ なお、アマゾン入荷済みですがタワーレコードとHMVは7月26日入荷予定です。

### ▼3月8日G.ロッシェーニ交響楽団演奏会〈はなみー日本のための一輪のミモザ〉について▼

旧聞で恐縮ですが、今年3月8日ペーザロのロッシェーニ劇場にてG.ロッシェーニ交響楽団の演奏会「HANAMI - Una mimosa per il Giappone (はなみー日本のための一輪のミモザ)」が行われました。この催しを見落としたのは主催者であるG.ロッシェーニ交響楽団のサイトに演奏会の趣旨や目的が書かれていなかったため、後日調べたら、3.11の震災で防災庁舎から町民に非難を呼びかけ続けて亡くなった「南三陸町の勇気ある女性労働者」「遠藤未希さんの英雄的行為を強調すべく」催すと書かれていました。

曲目は、地元の新進作曲家ダニエロ・コミティニ (Danilo Comitini) の新作管弦楽曲《Hanami (はなみ)》とモーツァルト《レクイエム》。《レクイエム》のソリスト4人が日本人で、合唱にヒルズ・ロード・コーラス(東京)の名称があるので調べたら、日本ではこの演奏会が「バチカンより日本への祈りのレクイエム 2016」のイタリアでの公演の一環とされ、合唱メンバーの募集要項にもその「ロッシェーニ歌劇場公演」と記されていました。

でも、どんなに調べてもこの演奏会と「バチカンより日本への祈りのレクイエム 2016」を結びつける記述がG.ロッシェーニ交響楽団のサイトにありません。そもそもこれは、G.ロッシェーニ交響楽団が年に数回行う定期演奏会「SINFONICA 3.0」の3月8日の国際女性デー…イタリアでは「ミモザの日」と称されます…に合わせた演奏会だからです。それがある段階で女性デーのテーマに南三陸町の遠藤未希さんが結びつき、「はなみ」と題した新作や、追悼の意を込めた《レクイエム》になったのは、G.ロッシェーニ交響楽団の指揮者ダニエレ・アジマンが昨年3月日本で行われた「バチカンより日本への祈りのレクイエム」のコンサートと関わりがあり、日本の主催者がペーザロでの演奏をもちかけてこのような形で実現したようです。

「はなみー日本のための一輪のミモザ」に関するペーザロ市の告知 ↓

[http://www.pesarocultura.it/index.php?id=9217&tx\\_abaevents\\_pi1%5Babaevents%5D=4104&tx\\_abaevents\\_pi1%5BbackPid%5D=8958&cHash=1c6d46124b](http://www.pesarocultura.it/index.php?id=9217&tx_abaevents_pi1%5Babaevents%5D=4104&tx_abaevents_pi1%5BbackPid%5D=8958&cHash=1c6d46124b)

本日はこれにて失礼いたします。



(2016年6月25日 水谷彰良)





後援 イタリア文化会館、公益財団法人 日伊協会  
マネージメント ミリオンコンサート協会  
出演：天羽明恵／家田紀子／佐藤美枝子／高橋薫子／松尾祐実菜 [ソプラノ]  
富岡明子／阪口直子 [メゾソプラノ&コントラルト]  
上原正敏／中井亮一 [テノール]  
大石洋史／三浦克次／若林勉 [バリトン&バス]  
工藤翔陽／田中大揮 [助演]  
稲葉和歌子／金井紀子 [ピアノ]  
朝岡聡 [ナビゲーター]

曲目 (予定)：

《アルジェのイタリア女》～二重唱「妻を娶る気になったのなら」、第1幕フィナーレ「お殿さま、旅立ちの前に」  
《セビーリャの理髪師》～カヴァティーナ「町の何でも屋に道を開けろ」「今しがた一つの声が (今の歌声)」、  
アリア「中傷はそよ風です」、二重唱「それでは私なのね…」  
《ラ・チェネレントラ》～六重唱「あなたなのですね？」  
《泥棒かささぎ》～二重唱「どう涙をこらえたら！」  
《オテッロ》～アリア「なんですと！ ああ！ 何をおっしゃるのです！」  
《マオメット2世》～祈り「正義の神よ、このような危機にあつて」、三重唱「このいまわの時に」  
《湖の女》～二重唱「私は生きていられません」  
《セミラーミデ》～カヴァティーナ「美しく美しい光が」、二重唱「忠実な心を持ち続け」  
《オリー伯爵》～三重唱「この暗い夜の助けて」  
《ランスへの旅》～十四声の大コンチェルト「ああ！ かくも思いがけぬなりゆきに」

ちょっと盛り沢山すぎる気もしますが、20周年のお祭りですから華やかで当然。ナビゲーターは朝岡聡さん。筆者はプログラムに執筆する20年史と楽曲解説のみを担当する裏方です。チケット発売日が決まりましたら改めて告知します。

いつものように日本ロッシーニ協会会員の特別割引を実施します。詳細とお申し込み方法は、後日郵送する用紙をご覧ください。

#### ▼ROF チケットでお困りの方へ▼

今年のROFは、例年にも増してチケットが入手困難になったようです。先日も、「《イタリアのトルコ人》のチケットが買えなかった」との話を目にしました。その一方、「申し込んだ後に一人行けなくなりました。現地でリセールする手段はありますか？」とのお問い合わせも頂戴しました。

ROFのチケットは基本的に現地で引き換えますが、その後にロッシーニ劇場のボックスオフィス窓口でリセールを頼むことも可能です(チケットが売れたら窓口で代金を受け取れますが、売れなければそれで終わり)。

でも、買いたい人と売りたい人がすでについて、その希望日が同じなら事前に問題を解決できます。ちなみに筆者が相談を受けたリセール希望は、8月14日《湖の女》から17日《湖の女》までの全演目、各1枚です(《ランスへの旅》とベルカントコンサート含む)。「ガゼッタ」の読者で購入を希望する方がおられましたら、日本ロッシーニ協会ホームページの問い合わせフォームもしくはakira642で始まる協会事務局のアドレスへのメールでお尋ねください。

なお、日本ロッシーニ協会ではROFチケットの斡旋や仲介をしていません。あくまで筆者が個人的に相談に応じ、困った人をお助けするだけです。そもそもROFチケットは8月1日から現地で受け取れるだけで、それ以前には入手できません。ですから「ROFのチケットを譲るので代金を振り込め」という話があればそれは「振り込め詐欺」ですから、ご注意ください。

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年7月5日 水谷彰良)